



静岡県中小企業家同友会

2015 **12**

同友しずおか

VOL.445

題字：塩崎敬子氏 三島支部



私の逸品

日本文化の伝承と付加価値創出の両立に挑む

かわむら呉服店

詳細は WEB で！ (富士宮支部)

静岡同友会

検索

特集

第29回全県経営フォーラム in 富士宮

高嶺をめざし 今 動く時 ～中小企業憲章で豊かな地域づくりを～

記念講演

「労使見解」の実践が企業と地域の未来を拓く 講師：中山 英敬氏

会員訪問記

早川 清人氏 早川・池/谷合同司法書士事務所・志太支部 **片野 浩一氏** (有)弥生製作所・沼津支部

シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ **池原 智彦氏** (有)池原商会・志太支部

その他
主な内容

支部だより、静大連携講座、新入会員紹介、静岡支部感謝祭、友達の輪

平成27年度 重点課題

- ①経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ②中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL：054-253-6130(代表) FAX：054-255-7620 <http://www.szdoyu.gr.jp>

高嶺をめざし 今動く時

～中小企業憲章で豊かな地域づくりを～

第29回全県経営フォーラム in 富士宮に225名集う

11月14日（土）第29回全県経営フォーラムが、「高嶺をめざし 今動く時」をメインテーマに開催され、全県より225名が参加しました。設営担当の富士宮支部は受け入れ態勢を整え、法被を着て会場のパテオ
ン入り口に並び、来賓、参加者を迎えました。



全体会で挨拶する池谷実行委員長

全体会の冒頭、池谷達也フォーラム実行委員長は「少子化・高齢化や人口減など厳しい状況の中、各地域は特徴を生かし、人々が豊かに暮らすことの実現のためには、地域に存在する企業が雇用を担い、中小企業や小規模企業が元気にならなければなりません。私たち経営者はそのことを強く自覚し、共に高嶺を目指して動く時です。豊かな地域づくりのため共に頑張りましょう。」と力強い挨拶をしました。

続いて、知久正博代表理事が「同友会の理念を理解し、実践している記念講演・分科会報告者から大いに学び、刺激を受けてください。また、地域経済を担い、雇用を生み出し、生活を守っていくという考えを今後もさらに広げていくためにも、今日の学びが有意義で実のあるものになりますよう祈念します」と参加者に呼びかけました。

ご来賓として出席いただいた須藤秀忠富士宮市長の「厳しい経済環境の中、地域に根を下ろし、頑張っている中小企業が地元で事業を継続できるように支援する施策をさらに充実していきたい」というご祝辞をはじめ、渡辺吉章静岡県経済産業部商工業局長、伊東暁人静岡大学副学長から、同友会への期待に満ちたご祝辞をいただきました。



知久代表理事による挨拶

来賓・行政・関係機関出席者

（順不同）

須藤 秀忠様	富士宮市 市長
渡辺 吉章様	静岡県経済産業部商工業局 局長
伊東 暁人様	静岡大学 副学長
山本 義彦様	静岡大学名誉教授・同友会顧問
古橋 弘幸様	静岡県経済産業部商工業局 地域産業課副班長
岡田 裕一様	富士市産業政策課 産業政策担当 主幹
篠原 晃信様	富士宮市未来企画課 地域政策推進室 室長
伊藤 俊幸様	富士宮市未来企画課企画調整係 係長
伏見 賢治様	富士宮市未来企画課 地域政策推進室 主査
小栗 弘行様	牧之原市産業経済部 部長
宮島 康一様	三島市商工観光課 課長
土井 一浩様	富士宮市産業振興部 部長
植松 康夫様	富士宮市商工振興課 課長
佐野 和也様	富士宮市商工振興課 知財戦略・ 商業係長
佐野 勝紀様	富士宮市商工振興課 主査
渡邊 信之様	富士宮市商工振興課 事務員
土井 康志様	富士宮信用金庫神田支店 支店長
望月 孝訓様	富士宮信用金庫駅南支店 支店長
稲葉 晃司様	富士宮市議会議員



祝辞を述べられる須藤秀忠富士宮市長

「労使見解」の実践が企業と地域の未来を拓く

講師：中山 英敬氏 (株)ヒューマンライフ 代表取締役

中小企業家同友会全国協議会 経営労働委員長
福岡県中小企業家同友会 代表理事



- 設立／1998年
- 資本金／1,000万円
- 年商／5億8,000万円
- 従業員／174名
- 業種／コールセンター業務全般
- 基本理念／Let's live a full life !
充実した人生を実現しよう！
- 経営理念／「相互信頼」
あてにしあてにされる関係

自己紹介～私の創業

(株)ヒューマンライフは、健康食品の通信販売に専門特化した、コールセンター業務を行う会社です。

元々地元の大手セメント会社で働いていた私は、自分が企画したコールセンター事業が会社に採用され、その立ち上げに人生を懸けて取り組んでいました。そして、事業の基盤がぐいぐい出来上がるという頃、会社から告げられたのは、事業の撤退。私は納得がいかず、独立し自ら行うことにしました。

お金の問題～人の問題

会社を設立したはいいものの、資金調達が思うようにいきません。銀行に融資を断られる中、商工ローンなどからお金を借り、何とか経営していきました。このような状況の中で、私の先輩たちが助けてくれました。そのうちの一人から同友会を紹介して頂き、すぐに入会。そして、経営指針書作成セミナーで指針書を作成しました。同友会の先輩に教わった通りに指針発表会を行ったところ、そこでの縁で銀行から融資を受けられ、資金面の問題はなくなりました。

金策に奔走していた私がようやく現場に入ると、そこは顧客からのクレームだらけでした。今度は顧客へのお詫びに追われる日々。絶望の思いで参加した同友会の全国大会で、分科会のバズセッションを通じ、私が経営者として足りなかった点を指摘して頂きました。このときの学びと同友会での学びを元に自社の問題点を見つめ、社

員と共に恒常的な残業を減らす事に取り組みました。間接部門の強化にも取り組んだところ、生産性が上がり、残業が減りました。サービスの質が向上し、お褒めの言葉さえ頂くようになりました。社員に「社長、変わりましたね」と言われたときは、涙が溢れてきました。同友会は、経営者を正しい方向に変えてくれる場所です。社長が変わり、会社が変わったと感じました。

多角化による本業の崩壊から、第二創業～全社一丸体制へ

その後、私は現場を社員に任せて事業の多角化に挑戦したのですが、2年経ったある日、大口取引先から、コールセンターがおかしくないか、と連絡がありました。調べてみると、2ヶ月間で40名が退職し、その穴埋めとして人材派遣を乱用。さらに、全社員にヒアリングをすると、会社や社長、顧客に対する不平不満が止まりません。私は、新規事業にかまけていたことを反省し、皆に対してお詫びと再建の想いを伝えました。するとリーダーたちが「社長だけの責任ではない。再建を手伝わせてほしい」と言ってきてくれたのです。彼らは1ヶ月半で0からの新人をひとり立ちさせるという研修を計15回、2年間かけて行いました。元の人数に戻ったとき、会社は強いものになっていました。

設立から10年目、リーダーたちが、経営指針書を作らせてほしい、と申し出てきました。以後、私がテーマと方針骨子を彼らに伝え、それを基に社員が方針と計画を立てる、という流れが定着しました。また、我が社ではマニュアルのない応対を目指しているのですが、そのためには理念教育が必要、とリーダー達が私に理念研修を依頼してきました。彼らの知恵や行動によって理念は従業員に浸透し、今では感動いっぱい、感謝でいっぱいのコールセンターになっています。

経営者に求められるもの

経営指針の実践はとても大事ですが、労使見解で一番大切なのは、従業員一人ひとりの信頼関係です。しかし、この信頼関係が、簡単にできません。社員達は、何年もかけて自ら正した経営者の後ろ姿を、いつも見ています。いくら綺麗ごとを並べても、心に響かない限り、何も伝わりません。信頼関係こそが根底に必要なのです。

今ある人口減少や地方からの若者の流出などの社会問題は、仕事が無いから起きています。一社一社が本気で労使見解を実践し、仕事をつくり、若い人を雇用し、地域と共に育てる。安心して働け、結婚でき、子どもを産み育てる社会をつくる。我々はその担い手なのです。仕事づくり、企業づくり、地域づくりを一体として考える責任が、我々にはあるのです。

※詳しい講演内容は、年内に発行する報告集(PDFファイル)をご覧ください。

理念の実践で三方よしの会社へ

高木 基氏 バリュートーカイ(株)・三島支部



高木 基氏

本分科会の報告テーマは「理念の実践で三方よしの会社へ」です。とてもシンプルな表現です。そして高木氏がこれまでしてきたことも「理念をつくり、発表し、社内でも共有し、社員全員で知恵を絞ってその実現に向け取り組む」というこれまたとてもシンプルなことでした。

高木氏は保険業の使命を「お客様の将来における健康面や金銭面の不安を取り除き、今この瞬間を幸せに生きて頂くこと」と定義し、その幸せのお手伝いをする社員たちが幸せでなくてはならない、との考えに至りました。社員の幸せを実現するため、雇用形態を保険業界では一般的な歩合給制ではなく固定給制にし、また休日の拡充、定時退社にも努めています。また、社内会議で「理想の会社とは？」という問いに皆で意見を出し合い



議論することで、社内のベクトルを一つの方向に向け、その実現のため社内業務の平準化にも取り組んでいます。何よりも社員とのコミュニケーションを大切にし、小グループのディスカッションを頻繁に開催することで理念の浸透・共有化を図り、その実現に向け社員一人一人が前向きに取り組むことで会社が発展してゆくという好循環を生みだしています。

高木氏の取り組みは言葉に置き換えると、とてもシンプルなものです。ですがそれ故に、その実現に向けた高木氏の数々の実践事例には自社を良い会社にしたい、社員を幸せにしたいという強い思いが込められています。社長の思いが即ち理念であり、思いの実現が即ち実践であるということに改めて感じました。皆さまが今日の学びを学びのまま終わらず「実践」に結びつけて頂くことを切にお願いして座長



座長 三田 宏一氏

の総評とさせていただきます。(㈱エムケイテクノ・三島支部)

参加者感想



報告者の高木氏が社長になるまでの苦労話、なってからの苦労話、そして、これから開けていく明るい未来の話。これら3部構成からなる氏の話の根底にあるものは、みな同友会活動から学び実践した結果でした。「社員にとって幸せな会社って?」「なぜ働くの?」社員と共に「どう思う?」と繰り返し考え、ついに社員が使命感を持ち、生きがいを感じられる会社を実現しました。お客様に信頼され、永く続く会社をつくり、地域に貢献すること。これらのことを念頭に正論を念仏のごとく繰り返し繰り返し唱えること。同友会の学びは奥深く、そして高木氏はそれを実践してこられたから、明るい未来、確かな事業承継の実践を迎え、地域貢献を含めた社長の未来を実現できるのだと確信しました。今回の全県フォーラム第1分科会への参加を通じて私は、自身の経営、同友会活動について熟考しなければいけない、と改めて誓いました。

藤森 利彦氏 (㈱魚森・御殿場支部)

第2分科会

経営指針を創る会で気付いた、 自社事業の本当の意味

～あきらめかけていた商売が、夢の仕事に変わる瞬間～

杉本 かつ行氏 (南静岡木工・榛原支部)



杉本 かつ行氏

「新市場創造」という大変難しいテーマに真っ向から向き合った当分科会。日々仕事をしていると、見えない市場がどこにあるかを考えない中小企業の社長が多いことでしょう。しかし今の市況を考えると、業界・業種を問わず、今後は考えていかねばならないと思います。全ての市場が縮小傾向にある今、考えて行動に移さなければ、事業の継続は難しくなるでしょう。

杉本氏がもがき苦しんだ中国のお話から一転、日本に帰ってきてからインターネット販売を通じてお客様の声を聞き、お客様視線に立ち返る事により、様々な問題が好転していったという報告は、参加者に大きな勇気と希望を与えたことでしょう。お洒落なデザインの商品開発を行い、従来の神棚を洋風の屋内空間にも似合う神棚へと進化させた



ことが、マスメディアで取り上げられ、今では浅間神社や小國神社にも奉納されるようになったという杉本氏。「インターネットの活用」がキーワードとして挙がりましたが、つまりはお客様の声をしっかり聴くことで、商品開発やサービス改善など自社が次にやるべきことが明確になるのだと思います。ある程度経営や販売の仕組みが出来つつある中で代表に就任、指針を創る会に参加し、経営戦略を考え、将来のビジョンを明確にしていきました。杉本氏の報告を受け、自社の見えない市場がどこにあるかを参加者全員で討論した当分科会は、大変有意義だったと確信しています。

中小企業経営者が自社を維持し発展させていく上で、「新市場創造」は必要不可欠です。常に経営者自らがお客様の声を聞き、商売の原点に立ち返り、新しい市場を自ら見つけ、それを継続発展させることが、お客様満足や社員満足に繋がり、会社の使命を実行できるという確信を以て、座長のまとめと致します。



座長 小塚 辰巳氏
(小塚建設(株)・榛原支部)

参加者感想



報告者の杉本氏とは県の経営指針を創る会10期生の同期で、お互い切磋琢磨する仲なので、今回の報告はとても楽しみでした。当初は「付き合っていた彼女の会社だから」という理由でアルバイトから始めた仕事でしたが、20代後半には会社の海外進出に伴い、別会社の社長に就任。しかしその事業はわずか3年で失敗。その結果、大きな負債を負ってしまうだけでなく、主力商品の品質も大きく下げ、売上も大幅に落ち込ませてしまいました。しかしそんな逆境の中でも時代の変化に対応し、モダン神棚という新たな市場を開拓し、今まで見ていなかった、見てこなかった顧客の心をつかみ、見事に会社の経営状態を回復させます。杉本氏の人柄、企画力、行動力ゆえの必然の成功だと強く感じました。

今年で3回目の全県フォーラムの参加でしたが、やはり支部とは違った良さがあり、初めての方とのバズセッションは新鮮でとても有意義な時間となりました。報告、バズでの学びはこの日限りではなくしっかり持ち帰り、また、全県で報告者になれるくらいに成長していきたいと強く思いました。

塚本 和成氏 (南塚本商店・志太支部)

第3分科会

「人を生かす経営」って何をすればいいの？

～まずは、何から始めようか？採用・障がい者雇用・共育・経営理念？～

パネリスト：

山田 誠司氏（共育委員長（株）メイコー）

金指 忠男氏（共同求人委員長（株）オートベル）

望月 宣典氏（経営労働副委員長 清水クレジット（株））

池原 智彦氏（障がい者問題委員長（有）池原商会）



（左から）山田 誠司氏、金指 忠男氏、望月 宣典氏、池原 智彦氏

本分科会は、今まで個別に活動していた各委員会が、打合せやリハーサル、そして本番を通して「人を生かす経営」というテーマでつながったことに大きな意義がありました。「労使見解」には「経営者である以上、いかに環境がきびしくとも、時代の変化に対応して、経営を維持し発展させる責任があります」と書かれています。10年、20年先を考えた時、経営を維持発展させていく為には新規採

用が必要になります。思いつきで人を採用するのではなく、経営者の想いを理解してくれる人との出会いの場、情報提供の場が共同求人委員会です。そして採用したら長い間一緒にいる彼らと、価値観を共有し共に学び、成長することが大切です。日々の企業活動の中でいかに社員と成長し続けられるか、それを学ぶ場が共育委員会です。その為には企業の進む方向を示す経営指針書が必ず必要です。経営労働委員会の役割は、同友会らしい指針書創りと検証です。理念にもとづく中長期計画や新規採用するための資金計画等が、求人・共育と深く関わりを持ってきます。そして「少しの工夫」で誰もが平等に働ける社会を目指しているのが障がい者委員会です。指針、採用、共育、これらが上手く回りだした時の成果が、委員会が目指す会社につながると考えます。経営労働委員会は、今後「人を生かす経営委員会」と名称を変更したいと考えています。そして、この四委員会の活動は「事業系委員会」の活動ではなく「運動系委員会」の活動として全県に活動の輪を広げて行きます。皆さんも「他の会社」のことではなく、ぜひ自社の未来のために各委員会に積極的に参加し、一緒に活動していきましょう。



コーディネーター 奥谷 卓史氏
（株）巴電業社・県経営労働委員長

参加者感想



4 委員会の皆さんの日頃の努力や、同友会理念への想い、特に労使見解に対する想いを強く感じました。私はこれまであまり県の委員会と関わりがなく、活動内容も理解していませんでした。今回は4委員会を知る上で、参加出来て大変良かったと思っています。この分科会への参加を通じ、社員との信頼関係の重要性を再認識しました。また、雇用の大切さや大変さ、どうしたら良い人材と巡り合えるのかというヒントも頂きました。人材確保で四苦八苦している我が社にとって、大変プラスとなるバズセッションでした。進歩的課題も頂いたので、今後の採用に役立てていきます。さらには「10年ビジョン」が印象的でした。私は日々の仕事に追われ、10年先など考えたこともなく、会社はおろか自分の将来すら軽視しておりました。やはり経営指針が重要であると強く感じました。大戸 利之氏（有）大戸化成・静岡支部）



「育てる仕組みを作ったから」といって、それが動いているとは限らない」「人を生かす＝社員を一人前にする＝たとえ自分の会社を辞めても一人前として巣立っていけるようにすること」「人を生かす経営を行うために軸となるものとして経営指針の成文化、短期ビジョン・長期ビジョンを作成すること。そして日々経営指針を見直し、進化させ、実践していくことが重要」など、各委員長からのお話の中から多くを学ぶことができました。「人を生かす経営」は「社員の人生を、仕事を通じて輝かせること」と学びました。そのために、自社が何のために存在し、何を社会になしていくのかを明確にしなければ実現できないものだを教えていただいた時間でした。前田 和人氏（有）アーク・沼津支部）

第4分科会

振興条例と中小企業家が 地域の未来を変える！

～ゾッとする未来に立ち向かうために～

稲原 研氏 松屋電気商会・富士宮支部
穂坂 勝彦氏 富士宮清掃(有)・富士宮支部



穂坂勝彦氏（左）、稲原研氏

さて、先月の10月21日は何の日だったか皆さんご存じでしょうか？ニュース等でも報道されていましてご存じの方も多いかと思いますが、映画「バックトゥザフューチャー2」で、当時の1985年からタイムスリップした30年後が、2015年10月21日でした。

映画に描かれていた2015年では車は空を飛び、看板からは3D映像が飛び出すまさにSFが思い描く未来でした。さて我々が今、暮らしている日本の現実社会はどうでしょうか？現実社会が歩んできたこの30年は、ジャパンアズナンバーワンの時代からバブル崩壊に向けて一気に突き進み、失われた10年、20年という先の見えない時代をさまよって参りました。そして今、本日報告させて頂いた人口減少社会の入り口に立たされています。

今日、この分科会にご参加の皆さんは討論を深める中で、これからの30年後の未来をどう描いたのでしょうか？何も手を打たなければ訪れる「ゾッとする未来」の地域の中で我々は生き残れるのでしょうか？

時間というものは誰にでも平等に与えられ、均等に流れていきます。時間は人を裏切らない。でも、都合良く待ってもくれませんし逆流もしないし、都合良く早く進むこともありません。今、産まれた子どもも社会人になるには15年、20年という時間がかかります。



今、手を打たなければ20年後30年後の我が社の、そして地域の未来は変えていくことが出来ません。

我々同友会の会員は「労使見解」で言う経営者の責任を背負っています。経営者である以上、いかに環境が厳しくとも、時代の変化に対応して、経営を維持し発展させる責任があります。

今、この地域を取り巻く課題に対し、30年後にあるべき姿の地域を手繰り寄せる為に、この課題に真正面から向き合い、今、手を打つべく行動するのは誰か？地域に根ざし、地域という経営基盤の下、真摯に学び実践し、よい会社・よい経営者・よい経営環境の為に努力し続けている我々同友会なのです。一人の経営者として、一企業としてよりよい経営環境をつくるため、あるべき地域の未来を共に手繰り寄せていきましょう。



座長 穂坂 勝彦氏
(富士宮清掃(有)・富士宮支部)

参加者感想



憲章・条例について、正直私の中では、そんなに重要視していませんでした。むしろ、作ってどうなるの？単なる自己満足なのでは？といった考えもあり、そのためこの話題を避けてきたところがあります。しかし県の理事会などで、他支部の方々が率先して条例制定に取り組み、その重要性を説いている姿を見ていると、私も取り組まなければいけないかな？という思いに変わってきました。そこでこの分科会に参加したのですが、始まって間もないうちは、まだ半信半疑でどうもピンときませんでした。しかし、報告者の熱意とバズセッションでの意見交換により、私の考えもだんだんと変わっていききました。私は同友会と地域の関わり方について、同友会企業が元気で黒字経営をしていくことで地域経済を牽引していければ、と考えていました。しかしその地域が高齢化や人口減で負のスパイラルに陥り、どんどん疲弊してしまつては、企業も健全な経営が出来なくなってしまうことを教えられました。そうなる前に、将来を見据えた声を発しなければならぬ。国は地域を守ってくれない。自分たちの地域は自分たちで守る。その声、行動を起こすのが同友会なんだと教わりました。既に、条例を制定した地域があります。御殿場はまだ産声もあがっていません。御殿場でも条例について、考える場をまづ作りたと思います。

菅沼 良将氏（玉穂木材工業(株)・御殿場支部）

第5分科会

工場自体が営業のツール

河原崎 哲哉氏 シンコーラミ工業(株)・富士宮支部



河原崎 哲哉氏

本分科会では、シンコーラミ工業(株)の工場見学をさせていただきました。

二代目社長の河原崎哲哉氏は「多品種小ロットの試作を行う開発型企业」という自社の強みを生かし、日々操業しています。河原崎氏の転機となる出来事として、2004年5月の工場火災がありました。この火災を転機に河原崎氏とシンコーラミ工業(株)は大きく変化しました。「感性を磨こう」の経営理念の元、社員一丸となって邁進し、火災に伴う生産体制の変更・新工場設立は、ピンチでもありましたが開発型企业として従来の方式から更に試作品に多く取り組むなど、大きく変化するチャンスにもなりました。今回見学した新工場は、開発には更に力点を置き、異物混入を防ぐ設備を嚴重にすることにより品質向上するなど、まさに営業ツールそのものになり、強みを生かせる工場になりました。

また工場設備以上の強みは、見学時工場を案内してくれた社員皆さんの姿でした。会社を案内する社員皆さんの姿は、河原崎氏と社員皆さんとの良好な関係を十分に感じる事が出来ました。バズでも「工場は素晴らしい。それ以上に会社を誇らしげに案内する社員皆さん自身がシンコーラミ工業株式会社を支えている事が一番の強みだ」と参加者が認識することが出来ました。本分科会のバズテーマ「自社の強みは？それをどう活かしますか？」は、参加者すべてに当てはまるテーマであります。中小企業にとって企業が存在し続けてい



くためには、社会に必要とされ存続する為に強みを突き詰める事が必要であり、そこで働く社員皆さんとの良好な関係を保つことが自社の強みを最大限に生かす方策である。として本分科会の総評とさせていただきます。



座長 簗 威頼氏
(有)アサギリ・富士宮支部

参加者感想



他社の工場を見ることで何かヒントを得て自社に持ち帰ることができればと参加した第5分科会。エントランスに入った瞬間、工場とは思えないようなお洒落な作りにまず圧倒されました。トイレも美しく、まるで空港に来ているのかと錯覚してしまうほどです。

工場では毛髪や小物など落下物が発生しないようあらゆる対策がなされていました。もしシャープペンシルが持ち込まれてその芯が紛失してしまったら、見つかるまで製造ラインを止めて探すとのこと。弊社ではつい先日、客先から預かったはずの長さ50cm・幅5cm程の金属板の所在がわからなくなってしまったことがありました。品質管理に対する意識レベルのあまりの違いに恥ずかしさを覚えます。

さて、そんな素晴らしい工場を我々に案内してくれたのは社員の方々でした。みんな笑顔で生き生きと説明してくれ、自社のことを好きで誇りに思っていることが伝わってきます。弊社もいつかそんなことを目指そうと心に誓いました。

最後に、日本語の「キレイ」は英語でいうbeautiful (美しい)、clean (清潔である)、organized (整理されている) の3つの意味があります。シンコーラミ工業さんはまさに日本の「キレイ」の心を表現したような工場でした。

佐野 純也氏 (株)山十佐野製作所・富士支部

支部だより

御殿場例会

「定性分析」に見る同友会の学びの大切さ

11月11日(水) エピ・スクエア 参加46名



沼津信用金庫 岡田 康之氏

「自社の格付けアップ! 第2弾」～社長さん、あなたの行動見られていますよ～と題し、沼津信用金庫 融資管理部長 岡田康之氏を講師にお迎えして開催いたしました。昨年度は決算書の数字から見る「定量分析」についてのご講演でしたが、今回は第2弾として「定性分析」についての講演です。金融機関が融資先である我々中小企業を自己査定する際、経営者の資質や経営環境など数値化できない分野をどのような観点で評価しているのか? 長い付き合いをしている金融機関の担当者からもなかなか聞くことができないお話を、より具体的に教えていただきました。定性分析では大分類にするとファンダメンタルズ、トップマネジメント、経営基盤、マーケティングの4つのチェック項目があり、各項目で社歴や取引先の状況、業界地位などといった企業の基情報から、商品の採算性、取引状況、アフターサービスといった企業経営に直接かわる商品力、従業員の採用状況や給与体系、教育の仕組みづくりといった組織にかかわる部分、経営者自身の計画性や健康度、後継者育成度合から、会社の整理整頓状況、従業員の電話対応や接客態度、服装など…。評価項目が多岐にわたっていることに驚かされました。と同時に、我々が同友会で学んでいる組織づくり、理念浸透、経営指針作成、社員共育といった「経営者の学び」すべてについて、金融機関もしっかりと評価してくれることを学んだ例会となりました。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)

榛原例会

もがきながら走り続けて見えたもの… そして、経営者になる

11月19日(木) さざんか 参加47名



三輪 雅則氏

三輪雅則氏(株マルイチ)の報告による、我が経営を語る例会でした。学生時代の突然の父親の不幸。社会人になり母親に楽をさせたいという思いから三輪氏は家業を継ぎますが、そんな矢先、母親の突然の事故死。それにより、三輪氏は全ての目標を見失ってしまいます。しかし、ふと、自社工場の何度も塗り重ねられ、まるで地層のようになって剥がれた床を目にした時、この会社を守ること、そして継続していくことが亡き両親への恩返しであると思い立ちます。そして、同友会と出会い、経営指針書を作成する。同友会の学びの中で、社員の幸せと笑顔を作る事こそ自分の経営者としての仕事である、と気付きます。三輪氏の報告は、普段の明るく大らかな姿からは想像もつかない挫折や苦しみの連続でした。会員の心に熱いものがこみ上げてくる中、「経営者の責任とは?」というテーマでバズセッションが行われ、多くのオブザーバーの参加もあり活発な意見が交わされました。グループ発表後の知久正博代表理事(有知久太田会計事務所)による総括は、同友会の労使見解を引用した、とても分かりやすい内容でした。

従業員と信頼関係を作るため経営者は何をすべきか? という問いに、各会員それぞれの答えを持ち帰ったと信じています。

河内 崇文氏 (株スマートブレイン・榛原支部)

静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」



第5講 11月4日(水) この時代、働くとは何だろうか？ 青山 達弘氏 (株)青山建材工業

松永節也氏(株)フォーユー)、望月宣典氏(清水クレジット(株))と共に、パネルディスカッション形式で講義を行いました。それぞれが、社会人になった時、人生の転機、現在に至るまで、そしてこれからの想いを述べると共に、中小企業の魅力や個性、「働く」ということについて発信しました。

第6講 11月11日(水) 新しい発想と技術で模型業界を変革 望月 保延氏 (有)プラッツ

サラリーマン時代に感じた中小企業で働くことの魅力、中小企業だからこそその強みを話しました。また、自社で扱うプラモデルや模型を学生に実際に見せながら「何かを面白いと思う、取り組むことで色々なことに繋がっていく」こと、「弱みが強みになり、強みが弱みになり得る」ことなど、自身の経験を元に学生に伝えました。



第7講 11月18日(水) 再生可能エネルギーの将来への取り組み 大橋 徳久氏 (有)大橋商事

再生可能エネルギーの未来を拓くあらたな事業の取り組みを紹介しました。事業を通じて持続可能な地域社会づくりに貢献しています。いい会社をつくり利益を出し、社会的な信用を得ること。そして、会社は社員はじめみんなのものであり、最後は人間力があるものをいう、人間力を高めることが重要であると結びました。

第8講 11月25日(水) 日本のものづくりを支える中小「Sler」としての誇り ～地元生まれが地元で安心して働ける企業を目指して～ 梶山 康行氏 (株)アイティエス

自社の紹介やものづくり業界の背景、ソフトウェア業界について、そして今後の展開について話しました。最後に、企業の役割は雇用の創出であること、そして自社の考える三つの「安心して働ける企業」の要素を伝え、学生に自身の考える「安心して勤めることができる企業」について投げかけました。



連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第55回

私は第7期の卒業生です。第7期は人数が少なかつた分中身の濃い学習ができたのではないかと思います。特に卒業の一泊は寝る間を惜しんで一人ひとり話をしながら議論を交わしました。私は皆さんの貴重な意見にすべて否定的で最後には「何しにきているのか？」とまで言われました。私は今でもそうですが、八方美人的な性格です。できるだけ波風たたないようにと考えてしまいます。しかし、会社経営はそうは行けません。時には強く押し進めなくてはいけない時があります。それをこの創る会で学びました。

私は創る会に参加してから3つの事業を始めました。1つ目の「片付け隊」は、引っ越しや倉庫の片づけなどで大量に出る不用品を回収する事業です。2つ目の「まごのて」は、坂道や足が悪くゴミを収集場所まで出しに行けないと言った高齢者や障がい者のご自宅玄関までゴミ収集に行くサービスです。3つ目の「食品リサイクル」は諸事情により今は休止していますが必ず再開します。

どの事業も「お客様の『困った』を『助かった』に変えるお手伝いをします」と言う当社理念が根本にあります。まだまだ軌道に乗っているとは言えませんが、今、少しずつですが追い風が吹いてきています。この風を逃さないように絶対にやり遂げたいと思っています。

経営指針を創る会第7期卒業生
池原智彦氏 (有)池原商会・志太支部

お客様と共に二人三脚で問題解決！

早川・池ノ谷合同司法書士事務所 所長 早川 清人氏（志太支部）

事業内容：不動産権利登記、会社等の商業法人登記、
他に裁判事務等の各種法的事務手続

設 立：1986年2月

従業員数：4名

入 会：1991年4月

所 在 地：藤枝市岡出山1-7-1 ドエル山川1F

T E L：054-644-5128

28歳で事務所を開業

早川氏は若い頃より、おぼろげながら「法律に関する仕事に就きたい」と思い続けていたそうです。その影響からか社会人としての第一歩は、学習塾を経営していた多々良先生の下で塾講師を引き受けるとともに、同先生が経営していた司法書士事務所への就職でした。その後、28歳で司法書士試験に合格して独立しました。司法書士業をやっていく中で、視野も人脈も広がっていきました。その過程で知り合った諸先輩方々のお誘いの声の中に同友会がありました。経営について真面目に熱く語る会員の姿に惹かれ、入会を決意したそうです。

「人にやさしい、社会にやさしい」活動

人と人との関わり合いを重視している早川氏は、どのように複雑な案件でも、相談に応じるようにしています。そして、お客

様と二人三脚で問題を解決するように努めています。だからこそ、お客様と信頼関係も築いていけるのでしょう。お客様から別のお客様を紹介して頂くことが多いとのこと。そのため、あえて看板やホームページは設置していないのだそうです。11年前の司法制度改革以降は、特に裁判業務にも積極的に取り組まれています。また「知識は他人に教えることが出来てこそ身に着的と言える」という思いから、講演などの講師も数多く行っており、日々学ぶことを忘れないことが肝要と語ります。

今後について早川氏は、日常の業務を通して「人にやさしい、社会にやさしい」法律家を目指し、お客様から頼んでよかったと思われるようにしたいと語りました。

社会の変化に柔軟に対応する組織づくり

トップは人・社会を見る目と将来を見据えたビジョンを明確に持たなければならぬと話す早川氏。同友会活動は、業界の既成概念を崩し、柔軟に物事を考えることができる場です。「周りで起こる事象は、全て自分に関係する」という意識を念頭に、社会の変化に対応する組織を作っていくことが重要であると力強く語りました。

取材・記事 大石 貴啓氏（タイケイ株）・志太支部

取材 宮本 浩氏（大栄工業株）・志太支部



早川 清人氏（中央）

チャレンジし前進を続ける治工具製作専門会社

(有)弥生製作所

代表取締役 片野 浩一氏（沼津支部）

事業内容：機械部品加工

設 立：1966年11月

従業員数：正規5名 パート2名

入 会：2004年5月

所 在 地：沼津市大諏訪787

T E L：055-920-7077

U R L：www.yayoi-seisakusho.com/

提案形機械部品加工業

(有)弥生製作所は、マシニングセンターやNC旋盤等の機械を使用し、工作機械部品、産業機械部品、治工具類を製作しています。加工材質は、鉄、ステン、アルミ、真鍮、鋳物、プラスチック類、銅などです。今までの経験とデータ蓄積量を使用して、客先の要望に合う製品を提案形式で製作する企業です。

仲間へ背中を押され、1回目の工場移転

片野浩一氏は「我が経営を語る」例会で報告者を務めた後、沼津支部の皆さんに背中を押され、8年前に大諏訪へ工場を移転。大きな資金を投入することへの恐怖心と不安感はあったものの、やる気と使命感から「前進あるのみ」と一大決心したそうです。沼津支部の「指針

をつくる会」でも勉強し、経営者としての強い想いを確立しました。その結果は確実に出ていて、設備増、営業力・技術力向上、取引先増加、社員数増、と仕事量や内容にプラスの変化がありました。順風満帆のようですが、その結果に至るまでには多くの難題に当たり、苦労も多く、責任の重圧を強く感じることもありました。その中でも社員の問題については、労使見解、会社内ムード作り等これまでにいろいろと取り組み、今後も継続していく、とのこと。



片野 浩一氏（右側）、奥様と

次の目標は2回目の工場移転

現在の工場は設備がいっぱいで、次の機械設備導入ができない状態です。技術革新や新分野開拓のために、そして次世代に繋げ顧客の要望変化の為にも数年後には事を起こさなければなりません。異業種や同業他社との連携強化、信頼関係の強化も進んでいます。「次の工場移転は、自身の人生最後の決断になる」と片野氏。事業継承も成功し、今後更に人間力を磨き精進していきたい、と語ってくれました。

取材・記事 渡邊 健氏（南ドリームズミュージックエンターテイメント・沼津支部）

新会員のご紹介（敬称略） 会員数974名

氏 名	社 名 ・ 事 業	所属支部	紹介者
平 垂希子 たいら あきこ	rainbow隠れ家salon&school カラーサロン業	三島	石川 英章
勝亦 悠一郎 かつまた ゆういちろう	菱友冷熱(株) 冷暖房空調設備工事業	沼津	藤原 博美
塚田 真 つかだ まこと	塚田技建 建築工事施工業(建設業)	静岡	海野 敦
杉山 尚也 すぎやま なおや	(株)ハーモニー 中古品の加工・清掃・検品(ゲーム、CD、DVD、玩具等)	浜松	永井 忍 尾平 幸宏

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

静岡支部感謝祭

11月3日(祝) 三保貝島スポーツ広場



この感謝祭は、毎年、会員、会員の家族、会員企業の従業員も招いて、レクリエーションを楽しみます。

今年は、ソフトボールとバーベキューです。前日の雨も上がって秋晴れの中、2チームに分かれて練習試合を行います。軽い気持ちで楽しもうと言って始めましたが、やはり試合が進むにつれて両チーム共熱が入ります。中々の接戦となりましたが、試合後半は子供達もバッターボックスに立ち、大変盛り上がりしました。



ソフトボールの後は、バーベキュー会場に移動してバーベキューを行いました。食後は、会場内にある芝生広場で子供達とボール遊びをしたり、皆で語りあったりして一日を過ごしました。

普段の例会と違い、会員の家族とも一緒に楽しく過ごせ、良い一日になりました。実行委員の皆さんは段取り大変だったと思いますが、また来年も期待したいと思いました。

藤本 浩氏（プリントバリュー(株)・静岡支部）

友達の輪 第21回

静岡支部の若杉さん（㈲ティーパワー・静岡支部）からご指名頂きました、三島支部の三田宏一です。若杉さんは私にとって「友達」というよりも「良き兄貴」という存在です。初めてお会いしたのはゴルフ場だったと思います。当時三島支部のゴルフコンペに静岡支部ゴルフ部（？）の皆さんも遠征して来てくれていました。静岡支部の皆さんには本当にお上手で三島支部は完敗続きだったのを覚えています。ゴルフ以外では総会や全県フォーラムでお会いする程度でしたが、先日お会いした際に「静岡支部で早朝の勉強会をやってるんだよ」と熱く語っているのを聞き、知り合って5年、初めて真面目な一面を見せて頂いたような気がします（笑）。冗談はさておき、同友会の良さはこのような刺激を多くの方から頂けることだと思います。自分も負けてられない、もっと頑張ろう！そうした思いは経営者にとってのエネルギー源です。私は第8期の経営指針を創る会に参加したときにも多くの刺激と元気を頂きました。そのときの同期、榛原支部の田中美次さん（田中肥料(株)・榛原支部）にバトンを渡したいと思います。田中さんとは創る会で一年間同じグループでした。私よりずっと年上ですが気持ちがとても若く、会うと必ず元気をくれるような方です。それでは田中さん、宜しくお願いします。



三田 宏一氏（㈲エムケイテクノ・三島支部）

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。